

今週の為替相場見通し(2025年12月1日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		155.66 ~ 157.18	156.19	153.00 ~ 158.50
ユーロ	(ドル)		1.1503 ~ 1.1613	1.1600	1.1550 ~ 1.1750
(1ユーロ=)	(円)		180.13 ~ 181.51	181.14	180.50 ~ 182.50
英ポンド	(ドル)		1.3081 ~ 1.3269	1.3243	1.3000 ~ 1.3500
(1英ポンド=)	(円)	*	204.84 ~ 207.22	206.65	198.00 ~ 208.00
豪ドル	(ドル)		0.6436 ~ 0.6559	0.6548	0.6500 ~ 0.6620
(1豪ドル=)	(円)	*	100.35 ~ 102.37	102.30	101.50 ~ 103.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

国際為替部 為替営業第一チーム 高梨 杏光

(1)今週の予想レンジ: 153.00 ~ 158.50 円

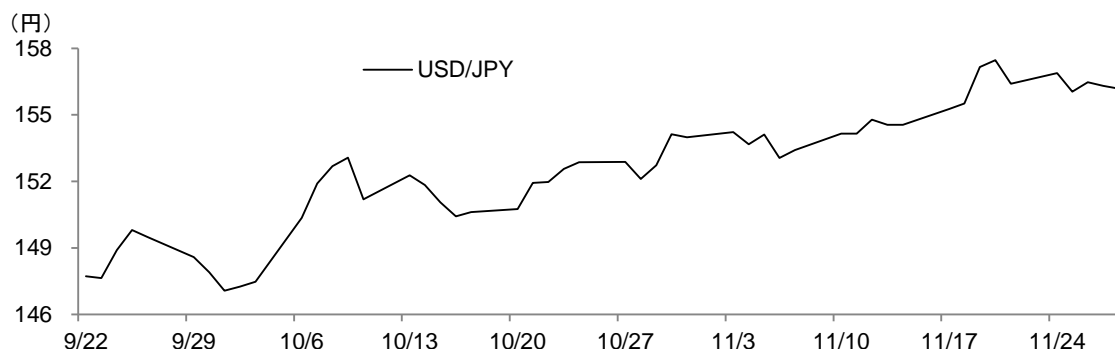
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は、高値圏でもみ合う展開となった。週初24日、156.72円でオープンしたドル/円は、本邦祝日で動意に乏しい中、高市首相の掲げる積極財政による財政悪化への警戒感から円安地合いが継続し、一時週高値となる157.18円をつけた。25日、156円台後半でもみ合い後、複数のFRB高官からの12月利下げを示唆する発言や次期FRB議長にハセツNEC委員長が有力であるとの報道、米9月小売売上高や米11月コンファレンスボード消費者信頼感が軟調な結果になったことなどを受け156円ちょうどを割り込んだ。26日、本邦利上げ観測の報道から円買いとなり一時週安値となる155.66円まで下落したが、堅調な日本株を背景に156円台を回復。27日、野口日銀審議委員の発言を控え155円台後半まで下落も、利上げに慎重な姿勢が確認されると156円台を回復。海外時間は、米国休場で材料難から156円台前半で小動きとなった。28日、米感謝祭翌日で市場参加者が少なく、156円台前半で小動きに推移し、156.19円で越週した。

今週前半は、日米高官発言や米経済指標の内容に振られ、後半は来週に12月FOMCを控え次第に様子見から小動きとなる展開を予想。本邦では、1日(月)に植田日銀総裁の講演が予定されている。先月、小枝・増日銀審議委員から、本邦利上げを容認するタカ派発言が確認されており、足許本邦12月利上げ織り込みは6割程度まで上昇している。再来週に日銀金融政策決定会合を控える中、日銀高官からは植田総裁の発言が最後となる予定であり、利上げ織り込みをさらに高めるような内容となれば円買いで反応するだろう。一方、米国では2日(火)にパウエルFRB議長の講演が予定されている。しかし、ブラックアウト期間で金融政策に踏み込んだ発言は確認できないため、反応は限定的となるだろう。経済指標としては、1日(月)に米11月ISM製造業景気指数、3日(水)に米11月非製造業景気指数、米11月ADP雇用統計、5日(金)に米9月PCEデフレーターが発表が予定されている。米11月雇用統計については、米政府機関閉鎖の影響で16日(火)に予定されており、最新の雇用環境の確認としてはADP雇用統計およびISMの雇用指数が注目される。米12月利下げ織り込みは先月のFRB高官のハト派発言を受け8割程度まで高まっており、指標結果が利下げ観測に与える影響を確認したい。

(3)先週までの相場の推移

先週(11/24~11/28)の値動き: 安値 155.66 円 高値 157.18 円 終値 156.19 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

国際為替部 為替営業第二チーム 伊藤 基

(1) 今週の予想レンジ: 1.1550 ~ 1.1750 180.50 ~ 182.50 円

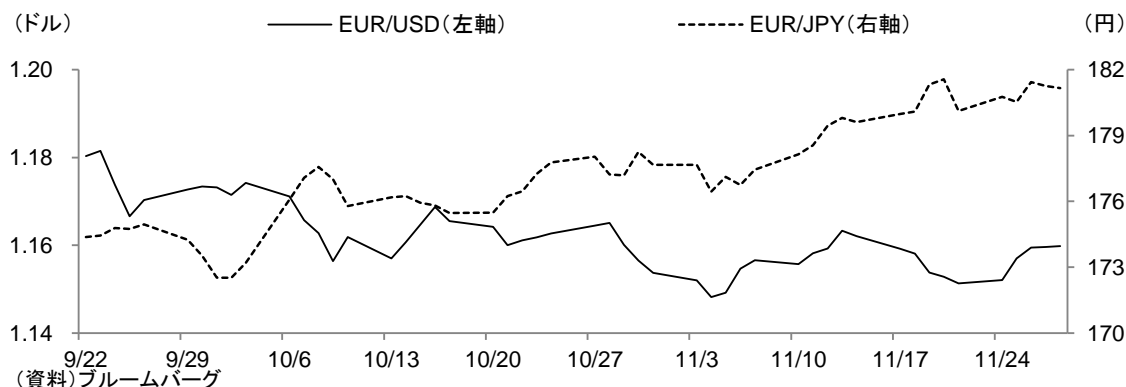
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

週初24日、欧州株式市場が堅調に推移するのを横目にユーロ買い優勢な場面も見られたが、独11月Ifo企業景況感指数の下振れなどの材料が散見される中で上値は重く推移。25日も東京時間から欧州時間にかけては、1.15台前半での推移となった一方で、米9月小売売上高や米11月消費者信頼感指数が市場予想を下回る結果になると、幅広い通貨に対してドル売りが優勢な展開となり、1.15台後半まで上昇。26日も前日の地合いが継続するなかユーロ買いが優勢な値動き。米新規失業保険申請件数が市場予想を下回った場面ではドル買いからやや値を下げる場面も見られたが、すぐに下げ幅を縮小させた。27日は、米感謝祭当日で市場参加者が少ない中で、東京時間には1.16台前半まで上値を伸ばした。その後は、欧州時間にかけて水準を切り下げる展開になるも、この日公表された10月ECB政策理事会の議事要旨で参加者が追加利下げを急いでいない姿勢が明らかになったこともあり、大きく崩れることなく1.16ちょうど付近での推移。28日は欧州時間にかけてユーロ売りが優勢な流れとなり、一時1.15台半ばまで下落するも、米国時間では12月FOMCでの追加利下げが意識されたことや月末のロンドンフィキシングにかけてドル売りが重なったこともあり、1.16台まで値を戻す場面も見られる中で週末を迎えた。

今週のユーロ/ドルは、引き続き堅調な展開を予想。先週末放送された番組内で、ラガルドECB総裁は足許のユーロ圏経済について状況は想定以上に良好であるとの見方を示していることに加えて、ECB政策理事会の議事要旨を見ても追加利下げの必要性を強く訴えるような意見はほとんど出ていない状況であることが確認された。一部の国では景気に対する先行き不透明感が燻っている先もあるものの、全体を俯瞰してみれば、ユーロ圏経済は底堅い推移が続いているだけにユーロ買いが選好しやすい環境が整っている。一方で、米国では12月会合での追加利下げ観測が茲許じりじりと復活しており幅広い通貨に対してドル売りが広がりやすいとみている。底堅く推移するユーロ圏経済に対して追加利下げ観測が高まるドルという対比の文脈でユーロ/ドルには上昇圧力がかかりやすいのではないかと。今週の主な予定としては、2日(火)ユーロ圏11月消費者物価指数、ユーロ圏10月失業率、4日(木)ユーロ圏10月小売売上高、5日(金)ユーロ圏7~9月期GDPなどが控えている。結果によっては為替相場にも影響を与える可能性があるだけに公表時間前後の値動きには注意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/24~11/28)の値動き: (対ドル) 安値 1.1503 高値 1.1613 終値 1.1600
(対円) 安値 180.13 高値 181.51 終値 181.14



3. 英ポンド

欧州資金部 天沼 幹

(1) 今週の予想レンジ: 1.3000 ~ 1.3500 198.00 ~ 208.00 円

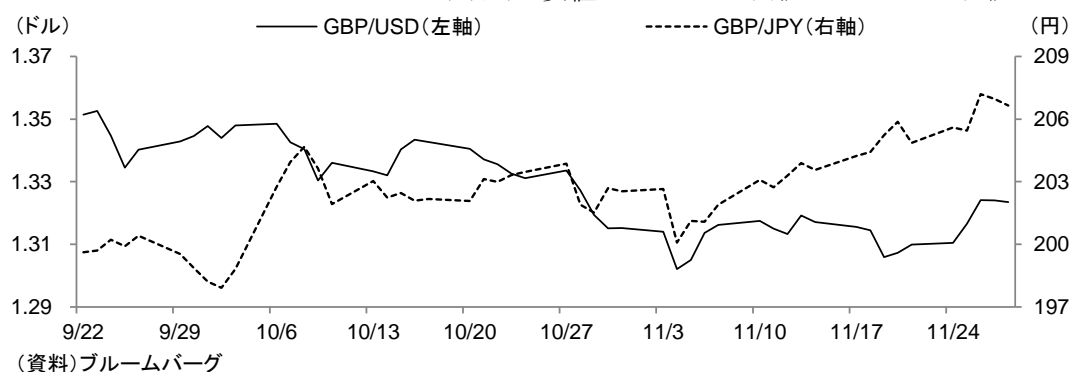
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は、対ドルで上昇した。週半ばに控える秋季予算発表にかけて底堅く推移し、発表直前にOBRから財政予測データがリークされたことで上下したものの、発表後に持ち直しそのまま週末へ渡った。当初は財政悪化懸念が拡大していたところ、所得税課税基準額の3年間凍結によるインフレ超過分に対する直接的な増税を決定し、数百万人が多くの税金を支払うことになるものの財政余力を大幅に確保。不動産の新税が提案されるも施行は28年からで本当に実行されるか懐疑的な見方がある。OBRによる成長見通しは切り下げられた。債券発行額については長期を削減し、短期中期を増額。市場は財政余力の大幅拡大が寄与し、英ポンド高、債券利回り下落で反応。翌日の調整においては長期債の売りが特に限定的で、全体的に想定されたよりも安定した推移であった。

今週の英ポンド相場は、堅調推移を想定。英国サイドでは主だった経済指標の発表は予定されていない。米国サイドでは利下げがほぼ織り込まれる中、米11月ISM製造業景気指数および米11月非製造業景気指数、米11月ADP雇用統計の発表が予定されている。オプション市場を見ると向こう一週間のボラティリティは、1.3130から1.3295のレベルで取引されており、あまり大きな動きは想定されていない。先週の英秋季予算発表を安定して通過し、ヘッジのアンワインドが続く中で大きなイベントもないため底堅く推移すると思う。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/24~11/28)の値動き: (対ドル) 安値 1.3081 高値 1.3269 終値 1.3243
(対円) 安値 204.84 高値 207.22 終値 206.65



4. 豪ドル

国際為替部 為替営業第二チーム 西 拓也

(1) 今週の予想レンジ: 0.6500 ~ 0.6620 101.50 ~ 103.50 円

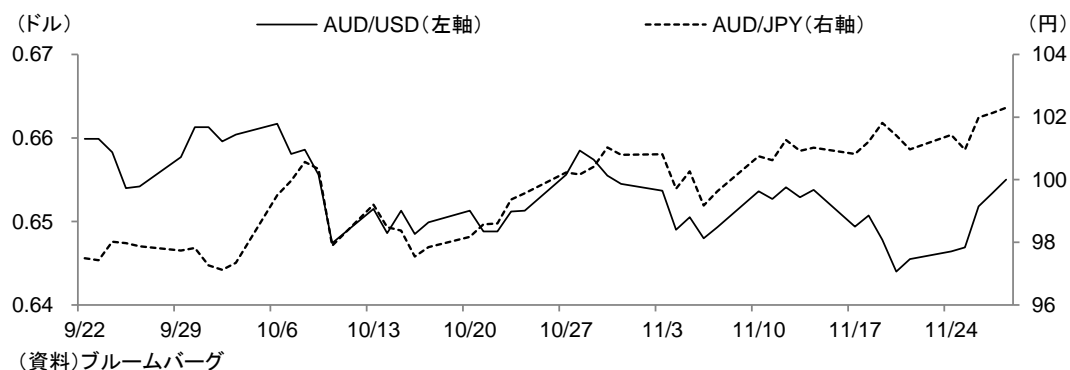
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は上昇。週初24日、0.64台半ばでオープン。本邦休場の中、同水準で方向感無く推移。25日、0.64台半ばでの推移が続き、米国時間には週安値となる0.6436まで下落。その後は次期FRB議長の最有力候補はハセットNEC委員長との観測報道を受けて米利下げ期待が高まりドルが売られる中で0.64台後半まで上昇した。26日、東京時間には豪10月CPIの市場予想比上振れ、米株先物や銅価格の上昇がサポートとなり、0.6470近辺から0.6510近辺まで上昇。欧州時間には値を戻したが、米国時間には米金利低下や米株高を背景に0.6520まで上昇した。27日、東京時間は前日の流れで豪ドル買いが続き、0.6540近辺へ続伸。ただ、米感謝祭で流動性が限られる中で勢い続かず、海外時間は0.6530前後での推移となった。28日、米感謝祭翌日で市場参加者が限定される中、動意に欠ける展開。米国時間には、堅調な株式市場を横目に豪ドルも買われ、週高値となる0.6559まで上昇。その後も高値圏で推移し、結局0.6548で越週した。

今週の豪ドル相場は、底堅い推移を予想。先週発表された豪10月CPI(前年比)では総合3.8%、トリム平均3.3%と、インフレの加速が確認された。RBAのインフレ目標である2~3%を過去7か月のうち6か月で上回ったこととなる。豪7~9月期民間設備投資も前期比6.4%と4年ぶりの高水準であったことも追い風に、追加利下げ観測は剥落している。8日(月)~9日(火)の豪金融政策理事会を前に、RBAはタカ派シフトさせる可能性が高いだろう。他方、米国ではウィリアムズNY連銀総裁による利下げを示唆する発言をきっかけに12月FOMCでの利下げ観測が再燃している。豪米金融政策の方向感の違いから豪米10年金利差は拡大傾向にあり、豪ドル相場をサポートすることになるだろう。今週の経済指標としては1日(月)に米11月ISM製造業景況指数、3日(水)に豪7~9月期GDP、米11月ADP雇用統計、米11月ISM非製造業景況指数、4日(木)に豪10月貿易収支、5日(金)に米12月ミシガン大学サーベイ、9月PCEデフレーターなどが予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/24~11/28)の値動き: (対ドル) 安値 0.6436 高値 0.6559 終値 0.6548
(対円) 安値 100.35 高値 102.37 終値 102.30



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。